



「病棟を訪ねて」(一九六一年)

国立ハンセン病資料館 2014 年度秋季・2015 年度春季企画展

# この人たちに光を

— 写真家 <sup>チョウ</sup> 趙 <sup>ゲン</sup> 根在 <sup>ジェ</sup> が伝えた入所者の姿 —

2014年 (平成26年) 11月16日(日) → 2015年 (平成27年) 5月31日(日)

(2015年2月17日(火)～2月28日(土)は展示替えのため休室)

- 開館時間 9:30～16:30(入館は16時まで)
- 会場 国立ハンセン病資料館 2階 企画展示室
- 休館日 月曜日(祝日の場合は開館)  
国民の祝日の翌日、年末年始(12月28日～1月3日)
- 入館料 無料

〒189-0002 東京都東村山市青葉町 4-1-13  
TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981  
<http://www.hansen-dis.jp/>

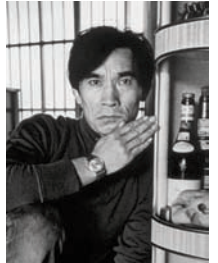
国立ハンセン病資料館  
National Hansen's Disease Museum

# この人たちに光を

チョウ グンジェ

## — 写真家趙 根在が伝えた入所者の姿 —

2014 (平成26) 年11月16日(日)～2015 (平成27) 年5月31日(日)



趙根在 (1933～1997)



「島での別れ」(1970年)



「新婚」(1967年)



「舌読」(1971年)



「医者よこせデモ」(1972年)

チョウグンジェ ひらいかねいち  
趙根在(日本名・村井金一)は1933(昭和8)年、愛知県で生まれました。生家は貧しく15歳で中学校を退学、家計を支えるため岐阜県内の亜炭鉱山に働きに出ました。以後数年間、事故と隣り合わせの危険な炭鉱労働に従事しましたが、やがて「地底の暗闇」で迎える死の予感に耐えられなくなり、「地上へ、光への脱出願望」をつのらせていきました。この時の辛く苦しい体験が、後にハンセン病療養所の入所者に対する深い共感へつながってゆきます。

1957(昭和32)年に上京し、映画プロダクションに所属して照明の仕事をしていた1961(昭和36)年、初めて国立療養所多磨全生園を訪れました。そこで在日朝鮮人入所者に会い、「この人はかつて私が地底で体験したような出口のない闇のなかに閉じ込められているのだ」と強い衝撃を受けます。そして、その闇から脱け出したいという入所者の切なる願いを、社会に伝えることこそ自分の使命だと確信し、これがきっかけとなって初めてカメラを手にしました。入所者と療養所を写すためのカメラマンの誕生でした。以後20年以上にわたって全国の療養所10ヶ所に通い、入所者と寝食を共にしながら撮り続けた写真は2万点にも及びました。

趙根在の写真は、体の不自由な夫にヤカンで水を飲ませる妻の姿や、感覚のない指の代わりに舌と唇で点字を読む視覚障害者、亡くなった入所者の葬送、患者運動など、そこに生きる人々とその生き様を鮮明に写し取っています。それらは入所者との強い信頼関係がなければ撮影できなかった場面の数々です。さらに火葬場、監禁室などを写し、それらが存在していた当時の療養所の特異性を伝えています。本展覧会では、これらの写真の中から81点をご紹介します。

趙根在が写真を媒介にして、どうしても社会に伝えなければならないと考えた入所者の姿を、ぜひこの機会に皆さんも心に刻んで下さい。

※会期中、2015年2月17日(火)～2月28日(土)は展示替えのため休室いたします。ご了承ください。

### 【付帯事業】講演会

## 「趙根在の写真語る」

大竹 章さん(多磨全生園入所者)

生前交流のあった大竹章さんをお招きし、趙根在との思い出や撮影された写真についてお話しいたします。

日時：2014年11月29日(土)

13:30-14:30(開場13:00)

場所：国立ハンセン病資料館 1階 映像ホール

※入場無料 定員150人

(当日先着順 事前申込不要)

## 国立ハンセン病資料館

National Hansen's Disease Museum

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13

TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981

http://www.hansen-dis.jp/

- 西武池袋線清瀬駅南口より、久米川駅行きバスで約10分
- 西武新宿線久米川駅北口より、清瀬駅南口行きバスで約20分
- ※いずれもバス停留所「ハンセン病資料館」で下車、徒歩すぐ
- JR武蔵野線新秋津駅・西武池袋線秋津駅南口より徒歩約20分
- 関越自動車道所沢ICより約30分(駐車場あり)

